

教えて! 村長さん



民間企業や教育機関との連携と
産官学連携協定について

今回は、①村と民間企業②教育機関などとの連携・取り組み③6月に設立した産官学連携協議会についてお伝えします。(敬称、敬語は省略)

Q 村に新しい民間施設が増えていますね。

A 7月に、久木野地区にある元民間企業の保養所だった施設が改修され、「TAOYA阿蘇」がオープンしました。また、旧グリーンピア南阿蘇が改装され、8月3日に「ラビスタ南阿蘇」としてプレオープンします。

新たなホテルには、地元食材の積極的な活用や地域人材の雇用創出につながる施設となることを期待しています。

また、観光においても、これまでの「通過型」のドライブ観光から、宿泊施設などにゆっくり滞在しながら南阿蘇エリアの魅力を満喫していただく「滞在型観光」への転換を目指します。宿泊を通じて村内はもちろん、周辺地域にも足を運んでいただくことで、地域経済全体への波及効果を生み出し、持続可能な観光地域づくりにつなげていきたい考えです。

加えて村への注目度が上がることで、イターン・Uターンといった移住者も増え、新たな人材や交流が生まれます。こうし

た動きにより、村がさらに活気と笑顔にあふれる好循環を目指します。



TAOYA 阿蘇スーパーリアトリプル



ラビスタ南阿蘇別館トリプル

Q 教育機関とは、どういった連携を進められているのでしょうか。

A 今年3月に、村はイデア・ITカレッジ阿蘇と「地域活性化に関する包括連携協定」を締結しました。この締結では7つの柱を立て、Aー(※1)やDX(※2)を活用した地域活性化の促進や、ITリテラシー教育(※3)の提供、情報発信やシタイプロモーション(※4)の展

開などを強化しています。また、学生のアルバイト支援や起業支援と共に、村内での移住環境を整えることで、卒業後の村内事業所への就職につながることも期待しています。

Q 東海大学との産官学連携協議会においての活動と、今後の動きについて教えてください。

A 村・村商工会・東海大学が連携し、地域の課題を一緒に考え、解決に向けた取り組みを進めます。その活動に賛同していただけの企業からのふるさと納税や、国の支援制度を活用しながら、持続可能な地域と生業づくりを目指します。

具体的には、「農業」「DX」「人材育成」の3つのテーマで分科会を構成し、企業や農家、教育・研究機関、投資家などと連携しながら研究や実証を行います。参加企業は、東海大学阿蘇フィールドを中心に、村内外の関係機関と連携し、地域の課題解決や新たな産業の創出に取り組みます。また、教育機関と連携しながら、若者や新たな知

識・技術を身に付けたい人が学び、活躍できる環境を整えることで、地域を支える人材を育て、村に根付いて活躍していただけるような基盤づくりを進めてまいります。

Q 最後に、村民の皆さんへメッセージをお願いします。

A これからは、村が持つ豊かな資源や魅力を民間企業や学校との連携によってさらに生かし、その成果を村民の暮らしの豊かさへとつなげていきたいと考えています。そして、子供たちがこの村で暮らし続けたいと感じられるような魅力ある村を育み、未来を担う世代へ向けて、希望あふれる村づくりに引き続き全力で取り組みます。

- ※1…「学習」「推論」「判断」といった人間の知的プロセスを、コンピュータ上で再現する技術のこと
- ※2…デジタル技術やデータを活用して、物事に新たな価値を生み出すこと
- ※3…情報技術(I-T)を安全かつ効果的に活用するための知識や技術を学ぶ教育プログラムのこと
- ※4…自治体が地域の魅力を発信し、観光・企業誘致や定住促進を図る活動のこと